



# ABILITY

## ABILITY Pro徹底攻略！

### その7 新機能搭載など、さらなる進化を遂げたVer1.5が登場！

2014年11月25日、ABILITY Pro / ABILITYが「Ver1.5」へと進化しました。これまでもネットを通じたアップデートで「ver1.00.x」というような細かな改良が行われてきたABILITYですが、今回は「1.50.0」の数字が示すようにかなり大幅なバージョンアップとなっています。しかも、ABILITYユーザーには無料で提供。起動時のアップデートのチェックやWebメニューからのオンラインアップデートで更新されます。そこで今回は、新しくなったABILITYの注目すべき新機能について紹介していこうと思います。(文：平沢栄司)

#### 新機能「ビートエディタ」でより音楽的なオーディオ編集が可能

Ver1.5の目玉機能が「ビートエディタ」です。これは拍やビート、音符の頭となる波形のピークを検出し、スライスされ、その区間に対して様々なオーディオ編集が行えるエディタ画面です(画面1)。

例えば、ミスしたNGテイクを正しく演奏できたOKテイクに差し替える場合、波形を見ながらの操作&微妙なマウスさばきは不要。ダブルクリック1発でスライスされた区間が選択できるので、OKテイクの区間をコピーしてNGテイクの区間にペーストするだけで、とても簡単なのです。また、各区間はコピーではなく移動もできるので、リズムパターンをビート単位で切り分けて、順番を入れ替えて新しいリズムに作り変えるといったことも可能です。

そして、アタックラインを左右にドラッグすると、その前後の区間をタイムストレッチすることができます。演奏がヨレているところのアタックラインをドラッグすれば、素早くリズムを修正することができるわけです。さらに、ピッチシフトでピッチの補正も行えます。

#### ハモリの作成も可能なボーカルエディタがV2に進化！

Ver1.5では「ボーカルエディタ」もさらに進化しました。特に違いがわかりやすいのが、右側に表示されるピッチタイムエディットの画面です(画面2)。

「フォルマントシフト」は、ピッチはそのままに声質を大きく変更できる機能。多重録音で1人でハモリ時にハモリ・パートの声質を変えたり、ピッチシフトと組み合わせるとボーカルを男声から女声に作り変えるといった大胆な使い方ができます。

「フェードイン/アウト」はピッチやタイムのエディットによって、つなぎ目にフェードの処理が必要になった際に自動的に処理してくれる機能、「スムージング」はピッチを変更した際に前後のピッチのつながりをスム

ーズにしてくれる機能です。「タイムストレッチのモード」は伸縮する際のアルゴリズムを2種類から選択するもので、切り刻んでオーバーラップさせるコンプに向けたモード1と、ピッチ変更とリサンプリングによるストレッチ方向に向けたモード2が用意されています。いずれも音質向上に欠かせないもので、これらの新機能によって、さらに自然な補正が可能となりました。

#### リズムループの加工で威力を発揮するプラグイン「relectro」

新しいVSTプラグイン「relectro」は、リズムループなどのオーディオ素材を加工することに特化した個性派エフェクトです(画面3)。例えば、生々しいドラムループを元に、エレクトリックで刺激的なシンセ・サウンドに作り変えるといった使い方がメインになります。従来は外部のシンセサイザーやフィルター、様々なエフェクターが必要だったサウンドが、プラグイン1つでお手軽に作れるのです。もちろんリズムに限らず、ギターやボーカルに使ってもOKなので、いろいろと試してみると面白い効果が得られるでしょう。

#### オーディオ・ファイルの書き出し機能が便利に！

パソコンの中だけで完結できるのがDAWの魅力の1つですが、現在の宅録ではネットを通じてコラボするなど、パソコンの外とやり取りすることも多くなりました。そんな時、各トラックをオーディオ・ファイルに書き出す必要が出てきます。Ver1.5では「オーディオファイル」の画面を大幅に強化。OUTPUTトラックからの2MIXだけでなく、各トラックやVSTiの出力を選択して、バラの書き出しが1発でできるようになりました。外とのやり取りが多い人や異なる音楽ソフトを使い分ける上級ユーザーには嬉しい新機能と言えます。

#### その他にも使い勝手を向上させる進化ポイントが！

使い勝手の面では、MIDIの打ち込み画面でノートのプロパティがウィンドウにドッキングしたことで、入力中のパラメーターの確認や微調整が容易になりました。また、ミキサー画面がABILITY本体のウィンドウから独立したことで、常に前面に表示したり、ABILITYの画面の外に出せるようになり、視認性が大幅にアップしています。オーディオ関係も、テンポ情報を持たない素材のテンポ検出で従来の波形ストレッチによる同期に加えて、ソングのテンポ情報を調整して、波形に同期させること

も可能となりました。これによって、オーディオ素材や録音したフレーズの利用の幅が広がります。

他にも、VST3プラグインのプリセットの管理を容易にするブラウザが用意されたり、お家芸のアレンジ機能に新しいアレンジ・データが追加されるなど、このスペースでは紹介しきれない要素がまだまだあります。ABILITYユーザーはもちろん、興味のある人はWebサイトを訪れて進化ポイントをチェックしてください。



画面1 新機能「ビートエディタ」はリズムやフレーズ、音符のピークを検出して挿入されたマーカーを元に、区間単位で編集できるオーディオ用の編集エディタ



画面2 ボーカルエディタV2は基本性能の向上に加えて、「ピッチタイムエディット」のエディット項目が大きく強化されている



画面3 LinPlug製のVST3プラグイン「relectro」を追加。シンセやエフェクトを駆使したような強烈な音色変化を作り出したり、リズム的な動きのあるサウンドに加工できる